

奈良・田原本町 橋梁保全の包括的発注モデル構築

膨大な道路インフラを管理する基礎自治体で技術系職員の不足による発注体制脆弱（ぜいじゃく）化への懸念が強まる中、奈良県田原本町は産学官共同研究のもと、橋梁保全での複数年包括的発注の事業モデルを構築した。設計者がCMR的役割を果たすことでECI（施工予定技術者事前協議）方式を効果的に活用し工期短縮やコストを縮減。発注者負担も軽減する。橋梁点検から補修設計、工事、情報管理を複数年契約で一括して発注することで一貫した設計思想に基づく品質の確保・向上を図る。＝関連3面

2020年度から国土交通省の補助を受けて、道路施設法定点検の1巡目で健全度Ⅲ（早期措置段階）と判定された

大阪市大、オリコンサルと共同研究

39橋を対象に2期に分けて5年間で事業を進める。22年度までの第1期では22橋を対象とし、橋梁長寿命化に向けた定期点検・修繕計画・橋梁補修設計包括委託業務を公募型プロポーザルで建設技術研究所に委託。年明けには補修工事の施工者も選定する。

共同研究は、町と大阪市立大学、オリエンタルコンサルタンツの3者が進めており、実務を通してECI方式と包括的発注の効果を検証し、さらなる制度改善につなげる。20年度では舗装や道路付属物を含めた道路ストック全体としての包括的発注に関する制度検討も進める。研究成果は全国自治体のモデルケースとして活用を呼び掛けていく。

